

祇園神社

現在の祇園神社がある天然洞窟は、古来より崇拝の場となっています。

旧油津港の入り口に位置するこの場所は、港が洪水や伝染病などの災いをもたらしてきたという歴史的、精神的な意味合いを持っています。古代日本では、このような災難は、怒りに燃える龍神の仕業であると考えられていました。油津では、この洞窟でそのような儀式が行われていました。1924年（大正13年）に、地元鉄道の幹部が提唱して洞窟内に神社が建立されました。祇園神社は、毎年祇園祭が行われる京都の八坂神社の系列神社で、嵐の神スサノオを祀っています。疫病と海の怒りから信者を守ると信じられているこの神は、おそらく日本神話で最も有名な「龍」を退治したことで知られています：スサノオは八つの頭を持つ大蛇「ヤマタノオロチ」を退治し、その尾から今では日本の三種の神器の一つとして崇拝されている剣を抜いたと言われています。